

すごいぞ！

関東鉄道常総線新聞

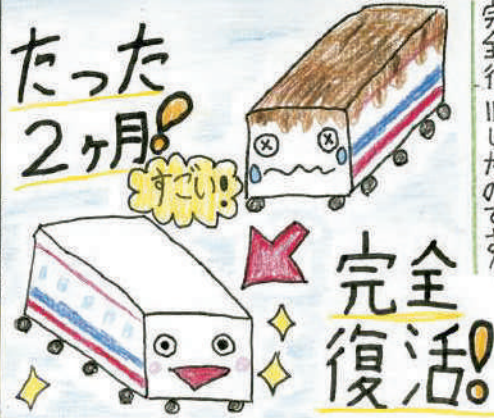
発行日 2022年8月
 発行者 佐藤 律

キハ2406

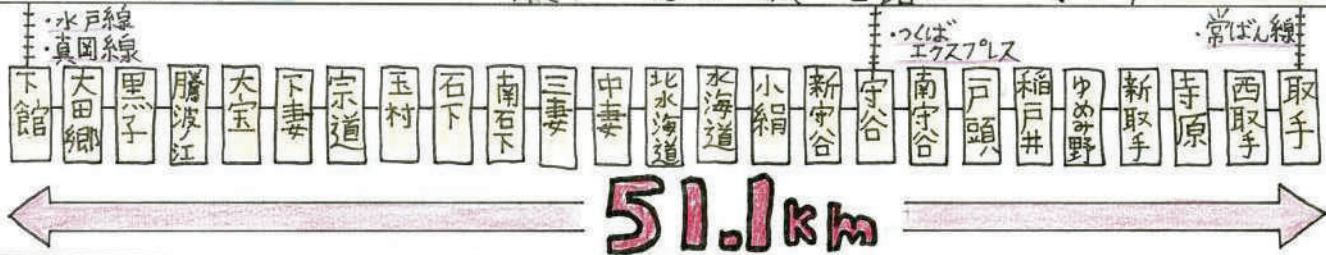


今年で
109年目！
すごい！！

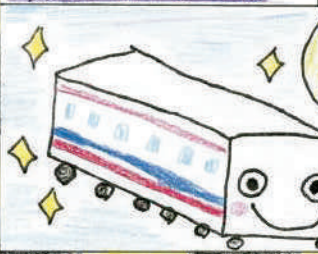
百年以上の歴史の常総線とは？
 一九一三年、常総鉄道として開業。
 一九四五年、筑波鉄道と合併して常総筑波鉄道となる。一九六五年、鹿島参宮鉄道と合併して関東鉄道となる。常総線は茨城県取手市の取手駅から茨城県筑西市の下館駅までをつないでいます。鬼怒川とほぼ並行して南北に走る、全線非電化の路線です。路線名はえん線が旧常陸国と旧下総国にまたがることに由来します。



常総線大ピンチ！
 二〇一五年、九月、台風十八号に伴う大雨によって常総市内の鬼怒川の堤防が決壊し、線路冠水、水没、線路道床流失など大きな被害を受けてしまいました。浸水が範囲は十七キロメートル。駅分も距離になりました。全線運休になってしまったのです。しかし、昼夜を問わない懸命な復旧作業のおかげで四日後には一部で運行再開し、二ヶ月後には全線開通しました。そして二ヶ月後には速度制限もなくなり完全復旧したのです。



編集後記
 ぼくは、今回新聞を作ってみて常総線のすごさをたくさん見つけることができました。いつもは車でかき回ることが多いけれど、鉄道の良さ、便利さを知り、たくさん利用したいと思いました。



コロナに負けるな！！
 常総線のガガカ！！
 関東鉄道では、さまざまな新型コロナウイルス感染症対策をしています。乗務員、駅係員のマスク着用や、つり革手すり車内の定期的な消毒、かん気などたくさん努力をしてくれています。一人一人が気をつけて、たくさんの人に常総線に乗ってもらいたいです。

実際に常総線に乗ってみた！！
 今回ぼくが乗ったのは、守谷駅から石下駅です。おすすめは三妻駅から石下駅の間です。筑波山や豊田城がとてもしっかり見えます。車から見る景色とは違って見えるので不思議です。そしておもしろいこともありました。石下駅でおりると駅員さんがいませんでした。常総線では、二十五人中、有人駅は七駅だけです。一車両でのんびり進む常総線に乗っていると、とてもおだやかな気持ちになりました。

